

性的搾取被害根絶へ全力

カンボジアの子ども支援を

発展途上地域の子ども支援事業に取り組んでいる「国際子ども権利センター」(東京)の甲斐田万智子代表理事(49)＝タイ・バンコク在住＝がこのほど佐世保市に帰郷。カンボジアで深刻な問題となっている子どもの商業的性的搾取(買春、ポルノ、性的目的の人身売買＝CSEC)被害の根絶に向けた精力的な活動について聞いた。
(佐世保支社・山口栄治)

甲斐田万智子さん



国際子ども権利センター代表理事



カンボジアの子どもを支援する甲斐田万智子代表理事
(国際子ども権利センター提供)

長崎市で生まれ、幼少期を佐世保市で過ごした。2003年から4年間、カンボジアに滞在。現地の非政府組織(NGO)と協力し、CSEC被害防止に向けた教育活動などを実践。07年からはユニセフに

勤める夫の転勤で隣国タイへ移ったが、現在も2カ月に1度、カンボジアに出向き支援を続けている。

「カンボジアの国民の3分の1は1日1000円以下で生活している。貧困のため5歳ぐら

寄付金協力呼び掛け「共に支え合うこと大切」

「助けを待っている人と助ける人ではいけない」と指摘。「地元の人が努力していることも知ってほしいし、共に生きる中で支え合っていくことが大切」と語る。

途上国の貧困に目を向け始めたのは大学時代。それから開発教育を学び、インドの児童労働問題などを引き、子どもにも侵害されてはいけない権利があることを30年近く伝えてきた。今も情熱は衰えない。

「同じ地球上に目を背けたくなるような現実があることを知り、何もしいではないならどうか、自分の子どもが性的搾取などの被害に遭う可能性があるとしたらどうか。一歩踏み出すことであるんな世界が広がってくると思う」

子ども権利センターは1カ月千円の寄付金制度の賛同者を募っている。甲斐田さんは「1日約30円の支援でカンボジアの子どもを守るプロジェクトに参加できる」と協力を呼び掛ける。問い合わせは同センター(電03・5817・3680)、ホームページアドレスは<http://c-rights.org>

支援補助金

「シークヤック体験など子どもの遊び場づくりに取り組みたい」、合気新道の有水理事長は「合気道にヨガを取り入れた指導で、元気で明るい子どもを育てたい」とアピール。学識経験者ら7人の審査委員

「アップ補助金(10万円以内)」と、既存の団体向けのスケールアップ補助金(50万円以内)の2種類がある。

ファーストステップ補助金の審査には、地域での体験交流活動を企画する「やまんだ倶楽部」(立山浩一郎代表)と、子どもに礼法を指導する「合気新道」(有水景一理事長)が応募。

やまんだ倶楽部の庄司圭一事務局長は「シークヤック体験など子どもの遊び場づくりに取り組みたい」、合気新道の有水理事長は「合気道にヨガを取り入れた指導で、元気で明るい子どもを育てたい」とアピール。学識経験者ら7人の審査委員